

外国人高齢者は今 ～多文化共生社会の先にある現実～



異文化   と  の現場から

外国人高齢者と介護の橋渡しプロジェクト
あいち多文化ソーシャルワーカーの会
代表 木下貴雄(王榮)

木下貴雄（王榮）

- ・ 多文化介護士・認知症介助士・心療回想士・多文化ソーシャルワーカー
- ・ 終活ライフケアプランナー・健康介護コンシェルジュ・心理カウンセラー
- ・ 愛知県医療通訳システム認定中国語医療通訳・愛知県犬山市認定中国語コミュニティ通訳・名古屋市委託中国帰国者自立支援通訳



- ☛ 1964年（S39年）中国黒龍江省哈爾濱市通河県生まれ
- ☛ 1981年（S56年）通河県濃河高校卒業
- ☛ 1982年（S57年）父の引揚に伴って日本へ
- ☛ 1988年（S63年）名古屋市立中央高校（Ⅱ部）卒業
- ☛ 1992年（H4年）愛知大学法経学部（Ⅱ部）卒業
- ☛ 1995年（H7年）杏林大学大学院国際協力研究科
修士課程修了（開発学修士）

それまでもその後、紆余曲折あり、「平凡」を求めて彷徨いながら、現在に至る。

外国人高齢者と介護の橋渡しプロジェクト

～日本人も外国人も安心して老後を暮らせる
地域社会を目指して～

ー外国人と介護制度をつなぐ3つの試みー

2014年度 公益財団法人トヨタ財団
国内助成プログラムによるプロジェクト

助成事業終了後も 活動継続中

HP: <https://kaigotuyaku.web.fc2.com/>

Facebook: <https://www.facebook.com/kaigotuyaku/>

外国人高齢化の現状

★在住外国人総人口 (2019年12月末現在)

2,933,137人

うち、**65歳以上** 183,776人 6.3%

アジア圏 159,683人 86.9%



★国籍・地域別 (65歳以上の外国人高齢者人口)

①在日コリアン (韓国・北朝鮮) → 127,776人 69.5%

②中華系 (大陸・台湾) → 25,273人 13.8%

③ブラジル → 9,445人 5.1%

④アメリカ → 6,106人 3.3%

⑤フィリピン → 2,882人 1.6%

⑥ペルー → 2,802人 1.5%



★高齢化に伴う課題 ⇨ 介護→ 看取り→ 葬儀・墓 ⇨ 異文化「介護・終活」

なぜ、異文化「介護・終活」が必要か

在住外国人における変化

→永住化・定住化・多文化化

生活とともに年も重ねている → 高齢化

- ☞生活者として、地域で暮らしている。
- ☞生活上の諸問題が生じて、福祉サービスを必要としている。
- ★「ライフ・サイクル」ゆりかごから墓場まで日本人に生じることは、外国人も同様に生じる
- ☞外国籍住民に対して福祉サービスが十分に提供されていない（受けられない）。
- ☞サービスを提供する側は、外国籍住民の文化的背景や価値観など十分に理解されていない、あるいは理解しようとしていないことが多い。
- ★「ライフ・サイクル」で捉えていない



ライフ・サイクル／ゆりかごから墓場まで

異文化「終活」の必要性

永住化・定住化⇒ 在住外国人も**高齢化**

人生の最期⇒ 日本で迎える人⇒ 今後、増えていくことが予測される。



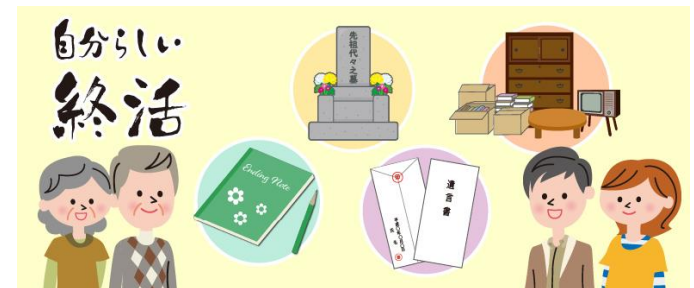
介護・ターミナルケア・看取り・葬儀・お墓



老後生活(老活)⇒ 人生の最期(終活)⇒ 人生の締め括り

言葉や文化、宗教、習慣、風習、価値観が異なるため、その人生の締めくりとなる異文化「終活」はまた難しさが多く潜んでいる。

自分らしく、納得のいく締めくりができるようにサポートを行う必要がある。



中国帰国者の現状と課題

☞ 高齢化

平均年齢：77歳を超えている

最年少者：75歳 最年長者：90歳代

- 身体が衰え、健康への不安
- 言葉の壁による医療・介護への不安
- 孤立化（引きこもり）
- 終の棲家（お墓）への不安

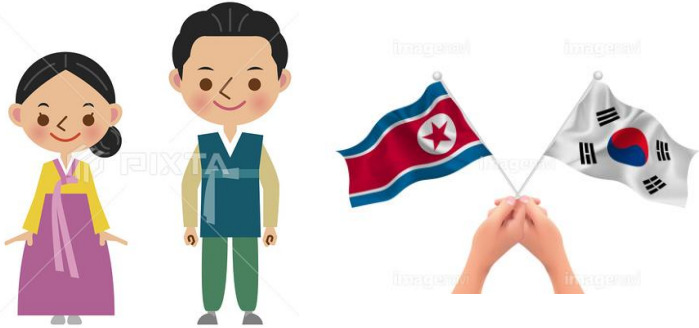
☞ 課題

- 介護・認知症への対応
- ケアする家族への対応
- 孤立化への対応



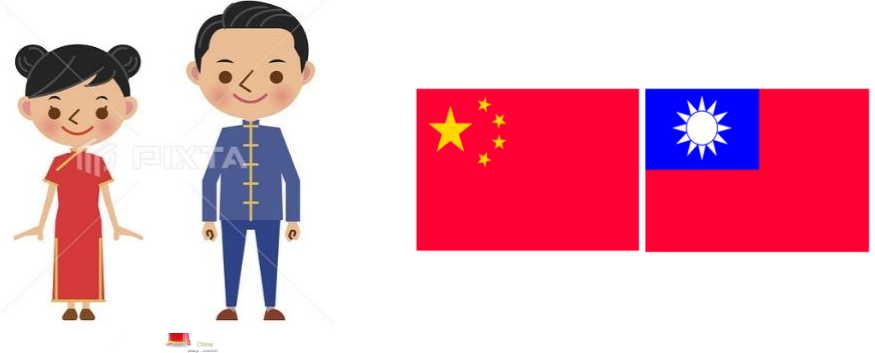
国籍・地域別 外国人高齢者の介護状況

①在日コリアン（韓国・北朝鮮）



- ☞ 日本が初めて経験する在住外国人高齢者介護
- ☞ 介護は戦前・戦中に来日した1世から
→日本生まれの2世にシフト →→世代交代による変化
- ☞ コリアンコミュニティの中で完結している（自助）
→特養「故郷の家」・デイサービスなど
※「在日コリアンによる 在日コリアンのための支援」
- ☞ 多文化共生に向けての取り組み
→中国帰国者に対する支援
→地域社会との連携

②在日中華系（中国大陸・台湾）



- ☞ オールドカマーである「老華僑」はすでに介護を経験しているが、在日コリアンのように表面化（社会問題）していない。
- ☞ 今は、中国帰国者（1世・2世）要介護が増加し、社会問題になっている ※帰国者は公的支援（公助）を受けているが、介護に対する施策が十分になっていない。
- ☞ 帰国者2世3世（または在日中国人）による介護支援（訪問介護・デイサービス）が増え始めている。
※「中国帰国者による中国帰国者のための支援」（自助）は、まだ発展途上にある。
- ☞ 現状では、コミュニティの中で完結すること（自助）ができず、終の棲家（老人ホーム）となる受け皿を作るには、公的支援（公助）の強化と社会的支援（共助）が必要。

国籍・地域別 外国人高齢者要介護

①日系南米人 (ブラジル・ペルー)

②フィリピン人 (女性)

③アジア花嫁 (中・韓・台・比・泰など)



- ☞ 病傷による介護(年齢に関係なく)
- ☞ 障害(知的・精神的・身体的)による介護
- ☞ 老親世代の介護(高齢者)

- ☞ 夫や舅・姑の介護
- ☞ 病傷による介護(年齢に関係なく)
- ☞ 老親世代の介護(高齢者)

- ☞ 夫や舅・姑の介護
- ☞ 病傷による介護(年齢に関係なく)

☞ 高齢が深刻化、対策が急務

- ☞ ①②③、介護資格(ホームヘルパー2級・初任者研修修了)取得者・介護施設勤務経験者が多い。
- ☞ ②③、家族介護経験者が多いため、介護に関するある程度の知識・経験がある

10年～20年後、①～③の中から、どれだけの人が要介護正規軍になるか???
その時に備えて、いま、何をしなければならないかを考えて、対策を講じるべきである。

日系南米人の高齡化問題が深刻化

1990年の入管法改正により、多くの日系2世3世およびその配偶者が来日。

⇒「**出稼ぎ現象**」、「**移民還流**」。

来日後の問題として、①経済的待遇、②文化・習慣衝突、③子女の教育、④安定的就労、⑤犯罪

地域社会(住民)との共生が社会問題としてクローズアップされ、**永住・定住化**によって、問題が**多様化、複雑化**している。

あれから**30年の時が過ぎて**、日系南米人の**高齡化が表面化**してきている。いま、毎年約1万人ほどの日系南米人が永住権を取得している。

1990年代→「一時的」な「出稼ぎ」⇒「永住・定住」に意識変化がしている。

今の「**30歳～40歳代**」→マンションや一戸立ての住居を取得⇒日本での定住を決意。南米から**両親(高齡者)**を呼び寄せる。

昔の「**30歳代**」→来日から30年の歳月が過ぎて⇒「**60歳代**」⇒退職する年齢が近づき、**高齡化**に向かっている。

昔の「**40歳～50歳代**」→今では「**70歳～80歳代**」⇒**高齡化**が進む。

高齡者による相談が増えてきている。
介護サービス事業者による通訳の依頼が増えてきている。

日系南米人の高齡者のための老人ホームが必要との認識が高まっている。



日系南米人の**年齢層**をみると、**高齡化は急速に進む**と思われる。

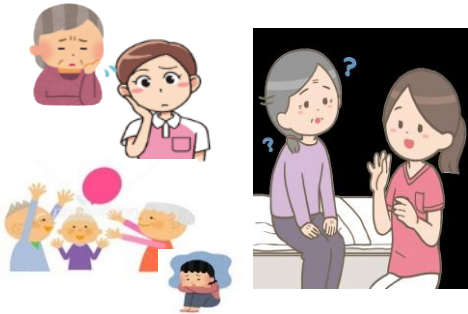
障がい・精神疾患が多い・特に子どもの割合多い。



外国人高齢者の「介護」における問題点

五つの壁

①コミュニケーションの壁



②識字の壁



⑤心の壁



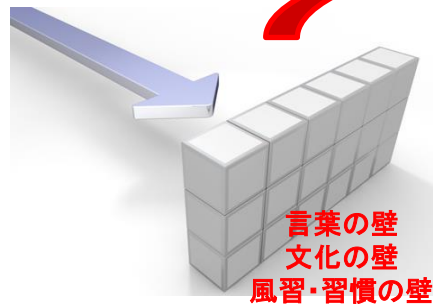
③食(味覚)の壁



④文化・習慣の壁



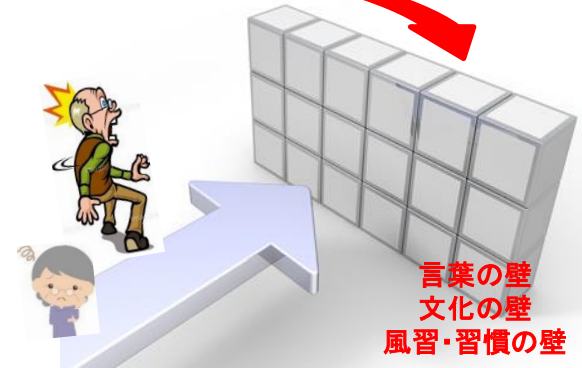
来日した時の壁が 高齢になって再び現れる



来日した時、言葉や文化、
風習・習慣の壁にぶつかる



日常生活のなかで、支え、
支えられながら、これらの
壁を乗り越えてゆく



高齢になった時に、再び、言葉や文
化、風習・習慣の壁にぶつかる

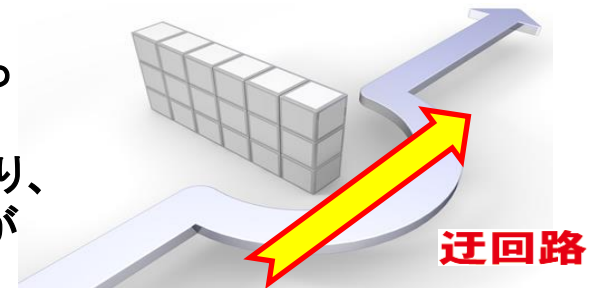


対策が遅れると問題が深刻化してしま
う (引きこもりや孤独死の発生など)
6割以上の日系南米人が老後生活に不
安を感じている。
健康保険・年金未加入者が5割以上と
いう現実
※日本・ブラジル社会保障協定 (25
年・15年)

無年金者の発生 → 老後生活に影響する。

高齢になって、要介護になっ
た時に、来日した時にぶつ
かっていた壁に再びぶつかり、
来日当初と同じような対応が
求められる。

高齢による日本語の忘却、
認知症による「母語がえり」、
「母国文化への回帰」などの
問題が生じる。



母語・母国文化・風習習慣
ありのまま、自分らしく

外国人高齢

プロジェクト

通訳育て現場に派遣

「今のうちに対策を講じて、後手に回ってしまわぬ。中国帰国者の父勝夫さん」を介護する名古屋市港区の木下貴雄さん(68)は、この危機感を感じさせる。

介護施設に勤める貴雄さんは、二〇一四年、名古屋市のNPO法人「東海外国人生活サポートセンター」を設立。市内の二団体と「外国人高齢者と介護の連携プロジェクト」とを始めた。まずは中国語に特化した「介護通訳者」の養成に取り出した。

「こうした取り組みには前例がなく、ケアマネジャーやケアマネや医師、介護者ら専門家を交え、養成カリキュラムの内容から手探りだった。勝夫さんのケースを基に、要介護や家族、ケアマネ役などを設定し、要介護認定の審査、サービス契約に関する個別々の場面を演じ、介護を受けるまでの流れが分かる

中国帰国者の介護

ビデオをテキストを作成、ケアプランの書き方、高齢者に多い病気を、介護や医療の専門知識も伝える内容にした。一五年度から二年度、トヨタ財団(東京都新宿区)の助成を得て、一定の日本語、中国語の能力がある日本人、中国人十七人を通訳として養成。一年間、無償ボランティアとして試行し、名古屋市内へ四十回派遣した。



も踏み込む。利用者や職員、利用者の士会の会合など、コミュニケーション全体を支援できる人を目指したい」と話す。

厚生労働省の一五年度の調査では、中国残留孤児を含む中国帰国者の平均年齢は十六歳。回答した帰国者は三六、百五十四人中、四人に一人は要介護、要支援の状態になっ



2016年10月、あつみ通訳ボランティアで、介護施設を訪問した。

行政の不備に危機感

ている。しかし、介護保険制度を知らないと考えた帰国者は30%もいた。

厚生労働省は中国語が通じる施設をホームページで紹介するメニューには、日本語が不自由な人への通訳はない。加えて、言葉の壁を感じるのは、中国帰国者や中国人だけではない。在留外国人は増加しており、一七年二月の時点で六十五歳以上は十六万八千人、全在留外国人の6%に当たる。日本に三カ月以上在住し、住民基本台帳に登録された外国人は介護保険料を支払う、サービスを受ける。期間労働者も自分で支払う。外国人が、定住する場合もある。その人たちが高齢になるのは当分前。一方で介護保険のシステムは利用者が日本人という前提。外国人をサポートする制度がないと、金城学院大の朝倉洋江教授は指摘する。介護通訳の取り組みを第一期の段階まで入らなくして進めざるを、通訳は最低限、必要なので、行政が支える動きにつながってほしい」と話す。

貴雄さんは「外国人が多く集まる確しなで、中国語のほか、韓国語やスペイン語などでも介護保険制度を周知してほしい」と話す。

貴雄さんは「必要外介護を受けられず、孤立している人もいる。ご実態を知りたい人を知ってほしい。おきてほしい」と呼び掛ける。

介護通訳については、四プロジェクト事務局、Eメール kagidou@yahoo.com、kagidou@yahoo.com、利用料は一七、年四月から二時間以内で五千円(出口税)

ごんな時、お役に立ちます

通訳ボランティア(中国語)

1日～2017年3月31日 無料で派遣します

中国語の通訳ボランティアは、中国語を母語とする外国人に代わって通訳サービスを提供し、生活の困りごとを解消する活動です。中国語の通訳ボランティアの派遣を行います。中国語の通訳ボランティアの派遣は、中国語の通訳ボランティアの派遣です。中国語の通訳ボランティアの派遣は、中国語の通訳ボランティアの派遣です。

中国語の通訳ボランティアの派遣は、中国語の通訳ボランティアの派遣です。中国語の通訳ボランティアの派遣は、中国語の通訳ボランティアの派遣です。中国語の通訳ボランティアの派遣は、中国語の通訳ボランティアの派遣です。

中国語の通訳ボランティアの派遣は、中国語の通訳ボランティアの派遣です。中国語の通訳ボランティアの派遣は、中国語の通訳ボランティアの派遣です。中国語の通訳ボランティアの派遣は、中国語の通訳ボランティアの派遣です。

根据需要随時利用

介護口译志愿者(中文)

帮助解决语言上的困难

在役所(政府) 咨询介护保险制度时

介护咨询员等家访时

和介护设施签合同 或 接受说明时

日本有支援需要介护的人的「介护保险制度」、为不懂日语不能去役所(政府)咨询、不能和介护人员沟通等有困难的人、派遣中文介护口译志

■活动时间 周一至周五(9:00-18:00)

■活动地点 仅限名古屋市内

■利用费用 自2016年4月1日至2017年3月31日免费(其后未定)

■利用方法 电话上、请在需要1小时前(即周六、日、休假日)详细咨询网页http://kibon2013.web.fc2.com/

■咨询电话(中文) Mail: kagidou@yahoo.com

电话: 076-5238-9812 076-5238-1081

主办/ 外国人高齢者と介護の連携プロジェクト

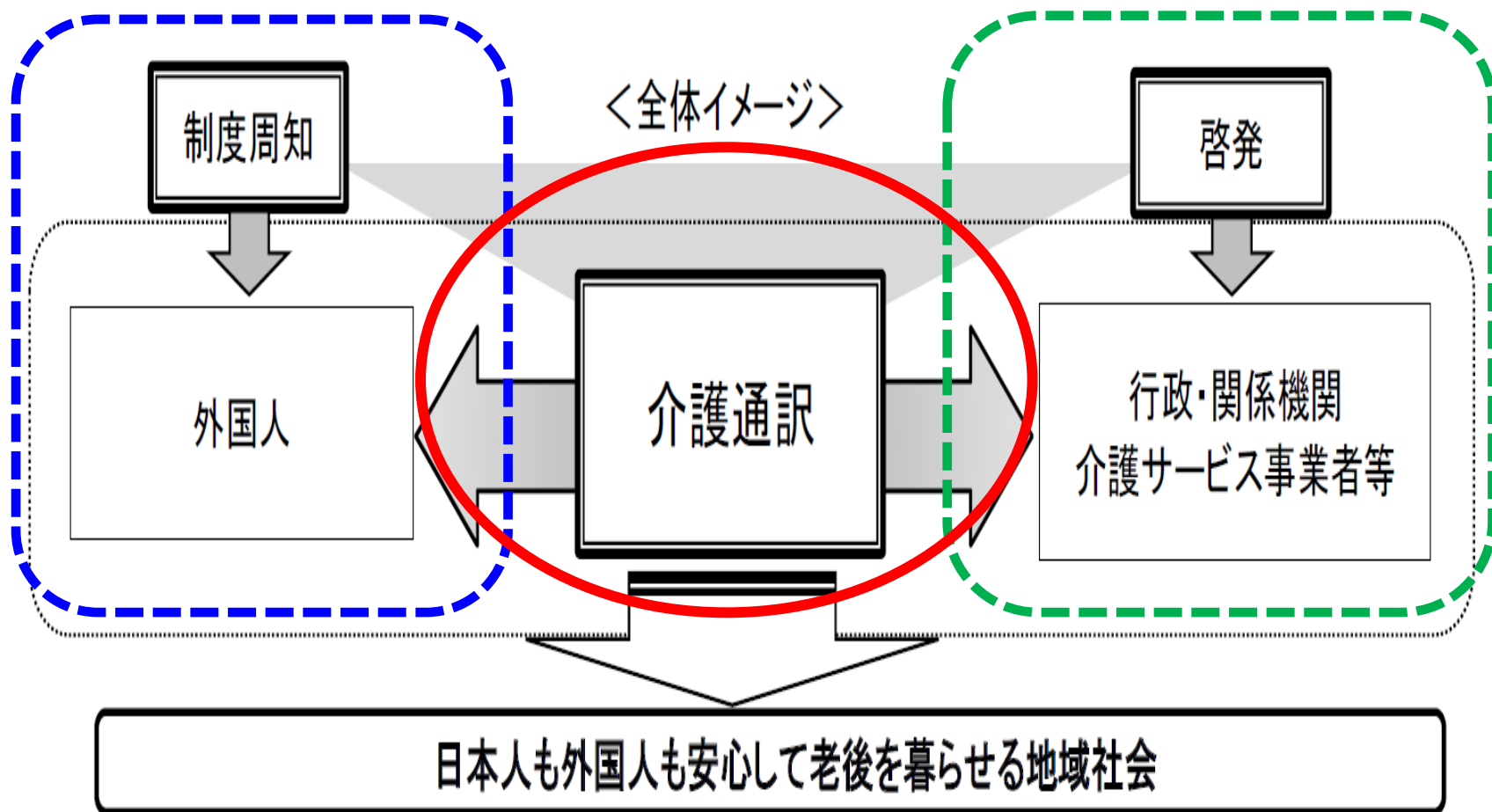
事務局: 名古屋市港区南郷三丁目1番1号 201号室

中国語通訳ボランティアの派遣は、中国語の通訳ボランティアの派遣です。中国語の通訳ボランティアの派遣は、中国語の通訳ボランティアの派遣です。中国語の通訳ボランティアの派遣は、中国語の通訳ボランティアの派遣です。

プロジェクト概要

- ▶ 外国人の高齢化が今後に進んでいくことが予想されるが、そのための施策は行政においてはまだとられておらず、介護施設においては受入体制はまだまだこれからだと言えます。
- ▶ また、介護制度に外国人がアクセスできていない状況の中、介護を始めとする外国人の高齢化に対する課題に早急に取り組んでいかなければならない。
- ▶ そこで、**外国人と介護制度をつなぐため、3つの試み**を行うこととした。
 - ①介護通訳者の養成・ボランティア派遣
 - ②外国人への介護制度周知等の働きかけ
 - ③行政・関係機関等に対する外国人の介護問題に関する啓発活動

プロジェクトの全体図



検討会議の開催・テキストの開発 等々



介護通訳者の養成研修



介護保険制度の周知



異文化介護を考えるシンポジウム

日本人も外国人も 安心して
老後を暮らせる地域社会を目指して



介護通訳者の養成研修

- 一定レベル以上の語学力を持つ人を募集し養成（中国語のみ養成）。
- 知識・倫理・通訳技術を体系的にカリキュラムに組み入れて実施。
- 第1期養成（18名）
2016年1月17日から2月28日まで5日間・22時間実施。
3月27日に現場研修を実施。
- 第2期養成（9名）
2016年8月21日から9月25日まで5日間・22時間実施。
10月2日に現場研修を実施。
- フォロー研修 2016年11月20日

介護通訳者(中国語)のボランティア派遣

～ 2016年4月1日からボランティア派遣開始 ～

通訳の対象となる内容

介護保険法に基づく諸介護サービスの利用時だけでなく、相談時、手続時等の場面においても、意思の疎通を円滑に行うことができるように通訳

【例】 役所の窓口における介護保険制度の説明、申請手続き
ケアマネジャー等による要介護認定の調査面談、ケアプランの説明
介護サービス事業者による契約時の説明、状況確認

派遣依頼者 本人・家族等、行政・福祉機関担当者・介護サービス提供事業者等

謝礼 2016年4月1日から2017年3月31日までは無料* (2017年4月から有償化)

通訳派遣回数: 43回 / 派遣通訳者数: 15名
(2016.4.1～2017.3.31)

お問合せ・依頼先 > kaigotuyaku2015@gmail.com

介護通訳の派遣から見たこと

- ☞ 確かな(潜在的)ニーズ(需要)があり、通訳の必要性がある。
- ☞ 利用範囲が当初の想定を超えている。
- ☞ より幅広い介護に関連する知識が必要であり、フォロー研修を通じて知識の幅を広げる必要がある。
- ☞ 介護施設内での通訳の場合は、他の利用者に対する配慮が必要。
- ☞ 誤訳を防ぐことができる。
- ☞ 通訳終了後の報告書の詳細記載(引継による情報提供)が大事。
- ☞ 無償は利用しやすいが、有償は利用しにくいという課題がある。

異文化介護から多文化・国際介護へ

在住外国人
高齢者・障害者



生活者・労働者

在住外国人
ケアワーカー



介護のパターン



①日本人→外国人

②外国人→日本人

③外国人→外国人

④日本式介護



海外へ

多様化
国際化

弘揚孝徳文化 共建和谐中国



国際介護

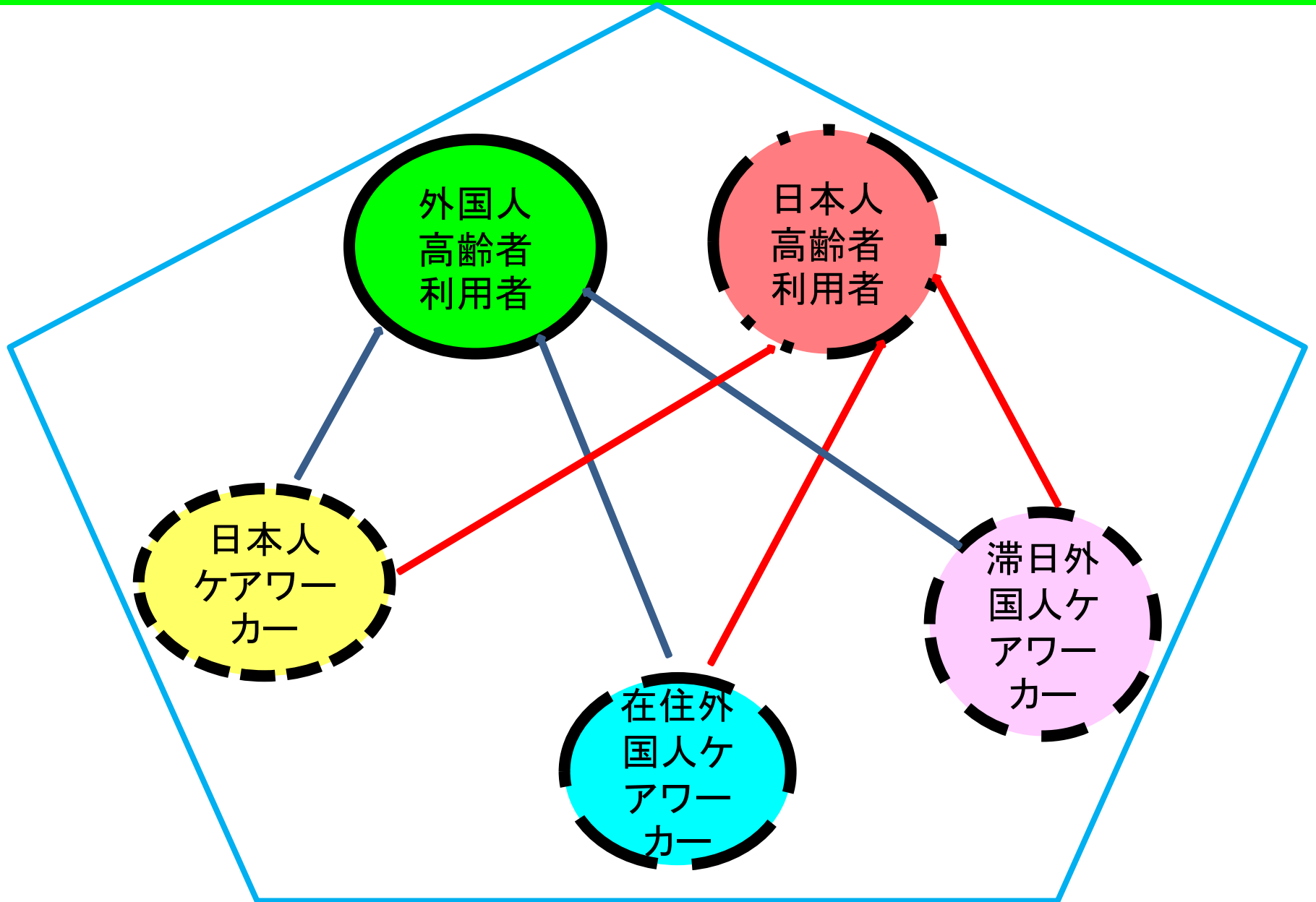
グローバル



EPA介護福祉士候補
者・介護技能実習生



施設内の異(多)文化介護



それぞれのこれからの多文化介護

- ☞ 国：法の整備（介護保険法など）
- ☞ 自治体：支援制度の構築
（コミュニケーション・サポーター）
- ☞ 地域社会：
視える化の関係作り／意識改革
- ☞ 施設：
受け入れ体制・環境改善・理解促進
- ☞ 在住外国人コミュニティ：
人生設計（ライフプラン）・自助組織の強化

あいち多文化ソーシャルワーカーの会

目 的

多文化共生社会の推進、外国人住民の生活向上を目指した多文化ソーシャルワーカーの活動を行うための技術および知識の向上、愛知県多文化ソーシャルワーカー養成講座修了生のネットワークの形成を目的として、2016年10月に発足。

活 動

- ①必要な技術および知識を向上させるための勉強会
- ②養成講座修了者のネットワーク維持ための情報交換会
- ③そのた、外国人住民の生活向上を目的とした諸活動



東海中国帰国者介護支援センター

目的

“中国帰国者による中国帰国者のため”の考え方を基に、高齢になった中国残留孤児をはじめとする中国帰国者の介護を支える。

活動

- 生活をはじめとする介護・終活に関する相談・支援
- 介護保険制度・介護サービスの周知
- 介護サービス事業者・介護施設等への理解啓発
- 中国語介護員による訪問介護の支援
- 中国語介護員がいる介護施設の紹介支援
- 中国帰国高齢者のための交流の場の提供
- 中国帰国高齢者向け入所介護施設の開設
- 中国語介護人材ネットワーク形成の支援
- 在住外国人高齢者の介護に関する研究 など



多文化市民メディア Dive-tv 放送局

Màn Tán Huá Xiù
漫談華秀



DiVE. tvは、日本人と外国人のコミュニケーションが促進されることを目的として、外国にルーツを持つ人たちが日本人と一緒に自国の文化を発信するインターネットの動画サイトです。

多様性を意味する“diversity”と互いに相手の世界に飛び込む“dive”の意味を込めて名付けました。

名古屋市内を中心に、多文化の視点で市民ユースを発信し、直接的・間接的に新しい価値観に出会うための機会の提供をしています。

<http://www.dive-tv.nagoya/member.html>

2015年(平成27年)7月3日 金曜日 享月 日 楽斤 陽曆 (夕刊)

多様な文化 動画で案内 外国人ら名古屋でサイト制作

外国にルーツを持つ人たちが、日本人と一緒に自国の文化を発信するインターネットの動画サイトが、名古屋で始動する。7日にスタートする「Dive.tv」。「diversity(多様性)」から取り、互いに相手の世界に「飛び込む(dive)」意味も込められている。

「違いの豊かさ感じて」

中国の人に贈って良い物、悪い物ってあるではない方がいいです」
「置き時計は持っていかない方がいいです」
中国の生活文化を伝える番組の収録、中国残留邦人の9世代、名古屋市で外国人の医療通訳などに携わる

王采さん(50)が日本人女性に「この話題は、中国でのお土産。中国語で「送り鐘」(置き時計)と送る」と同じ「王さんは「文化の違いを知っておかないと、喜ばれない」ともあります。日米ラジカル人、在日コリアン、そして中国、フィリピンなどにルーツを持つ人が番組を持つが、日本語を進める。この日、カメラを回した元テレビ局記者の牧野佳奈子さん(35)は名古屋市中村区に「日本人に知ってほしいから」と話す。愛知県内に住む外国人は約20万人。人口の2・7%を占める。「同じ地域に暮らしていても、お互いに相手のことをあまり理解していません」と話す。そんな問題意識が、サイトの立ち上げにつながった。牧野さんらが事務局を務め、外国人児童の教育支援などに取り組む市民団体や大学の教員、学生らが協力してサイトを運営する。

各国の留学生がお気に入りの料理店を紹介する番組も企画。日本の学生と一緒にランチを楽しむ、互いの生活を語り合ってもらえる。9月に名古屋港区であるアマチュアのフットサル大会と連携し、出場する外国人チームを紹介する番組も撮影中だ。ほかに視聴者による交流キャンプなど、互いの知り、交流につながるためのアイデアは尽きない。

フリーの記者として、アジア各国で環境問題や貧困の現場取材した経験も持つ牧野さん。「多様な文化を持っている人たちが、自分自身を豊かにしてあげたい。番組を通じて、身近にある「違い」の豊かさを感じてほしい」と話す。

サイトのURLは、<http://dive-tv.nagoya.com/> (読者)

①DIVE.tvの収録の様子。王采さん(左)ら出演者の掛け合いに、カメラを回す牧野佳奈子さん(右)の顔もほころんだ＝名古屋市名東区
②「7日スタート」を告知するDIVE.tvの準備ページ。ブラジル人や在日コリアンら出演者の写真がアップされている

DIVE.tv
7月7日 START

ご清聴 ありがとうございます！
謝謝各位！



王榮(木下貴雄) E-MAIL: takak888@yahoo.co.jp